

## 1. 学校経営ビジョン

### ◆校訓: 気づき、考え、行動する

### ◆学校教育目標: 自ら問い 学びをつなぎ 未来を創る 児童生徒の育成

- 【自ら問い】 主体的・対話的で深い学びを通じた、探究的な学習の推進
- 【学びをつなぎ】 小中一貫9年間の系統性と、教科横断・地域連携の強化
- 【未来を創る】 情報活用能力の育成と、社会参画・キャリア形成の実現

「自立・協働・創造」 — 次世代を見据えた教育活動の展開 —

県『さがん学び研究指定校』、文部科学省『教育課程柔軟化(サキドリ)先取り研究事業』指定校として、義務教育9年間の学びの連続性を生かした教育活動を展開する。

## 2. 重点目標: キャリア教育を核とした「3つの柱」の具現化・具体的アクション

### ① 【基礎基本の徹底】社会人としての基盤(「支える」力)

規則正しい生活と学習習慣を通して、社会を生き抜く 自己管理能力の基盤 を育成する。

- 活動の時間 15分 ➡ 心身を調律し、1校時への集中力を高める。
- 補充の時間 10分 ➡ 読み・書き・計算等の基礎を個別最適に徹底する。(評価: TOFAS)
- 全教育活動 ➡ 将来のキャリアを支える「非認知能力(心や行動の力)」を育てる。

### ② 【自己教育力の育成】未来を拓くスキル(「拓く」力)

自ら学習を計画・調整・振り返る力を高め、未来を切り拓く 学び続ける自己教育力 を育成する。

- 授業に ICT・教材を融合させ、「自立した学習者」を育てる。  
➡ 「授業モデル」の構築: 「課題設定→思考・対話→振り返り」のプロセスを全教科で定着させ、MetaMoJiを「考える道具」として日常化させる。
- 情報の時間 10分  
➡ ICTスキルの習熟を図り、探究的な学びを支えるリテラシーを向上させる。
- 系統的なキャリア教育の実践  
➡ キャリア教育教材 ENAGEED を扱い、正解のない問いに挑む力、当事者意識を体系的に育む。

### ③ 【個性の伸張】社会とつながるキャリア(「つなぐ」力)

自分の強みや関心を社会と結び付け、他者と協働しながら生き方を描く社会とつながるキャリア形成力を育成する。

- 地域をフィールドとした体験活動を系統化し、自らの生き方を展望する「志」を育む。  
➡ 地域共創・志教育: 外部人材(地域のプロ)を活用した授業を日常的に実施する。  
共生、命を守る仕組みを学ばせる。
- 系統性を意識し、発達段階に応じた「本物」の体験学習を実施する。  
➡ 校外学習では、生きること、平和、働くことの尊厳と社会の構造を実体験として理解する。

### 3. 学校運営の仕組み（働き方改革と一貫教育）

#### ■ サキドリ校としての戦略的な時間管理

○戦略的な時間創出（前期 40 分／後期 45 分授業を導入する。）

➔ 生み出した時間を児童生徒の学びの深化と、教職員の専門性向上に還元する。

○教職員のウェルビーイング

➔ 休憩時間を「中休み（15～20 分）」と「昼休み（30 分）」に分割保障し、確実なリフレッシュと事務処理の効率化を図る。

○組織的スキル向上

➔ 月・金の 15:00～15:20 を「全校研修」とし、授業改善に向けた協働的な研修を日常化する。

#### ■ 基盤としての教育

○人権・同和教育（不動の基盤）

➔ すべての教育活動の根底に「一人一人を大切にする」精神を据え、差別を許さない行動力を育る。

○OCS（学校運営協議会）と 9 年間の連続性

➔ 地域と情報を共有し、小中一貫校として 9 年間を見通した系統的なキャリア発達を保障する。

#### ■ 業務改善

○業務量管理・健康確保措置の推進

➔ 時間外在校時間 45 時間以下の割合 100%

➔ 教員業務支援員、教材の見直し、デジタル採点の活用、紙からデジタルへの推進

➔ 業務の平準化と効率化、前後期課程教員授業時数の平準化

➔ ストレスチェックの実施と結果の活用

➔ 留守番電話の活用（保護者との連絡は緊急時を除き 18:30 まで）

○年間の年次休暇の平均取得日数を 14 日以上

➔ 計画年休取得推進

○11 時間を目安とする勤務館インターバルの確保

➔ PTA 関連会議、保護者との会合は 19:00 まで（※遅くなる場合は翌日年休の習得推進）

子どもたちが、9 年間の学びを通して、  
「日々の生活（基礎）」が「学びの技術（自己教育）」につながり、  
最終的に「社会での生き方（個性・キャリア）」として花開くことを願って、  
全職員が協働体制を構築して取り組む。